

ニュース JAFIC EYE №233

令和3年10月のスルメイカ漁況について

1. 10月のスルメイカ漁

1) 全国の水揚げ動向

生鮮スルメイカの水揚げ動向は、冬生まれ群の資源量の低下により2016年以降は低調に推移しており、2021年も2013～2015年の9～11月の秋季のような水揚げ量の大幅な増加はなかった。

2021年10月の生鮮スルメイカの月別水揚げ量は2.6千トンで、前年同月の1/2、2013～2020年10月平均9.5千トンの1/4であり（図1）、2013年以降最低であった。

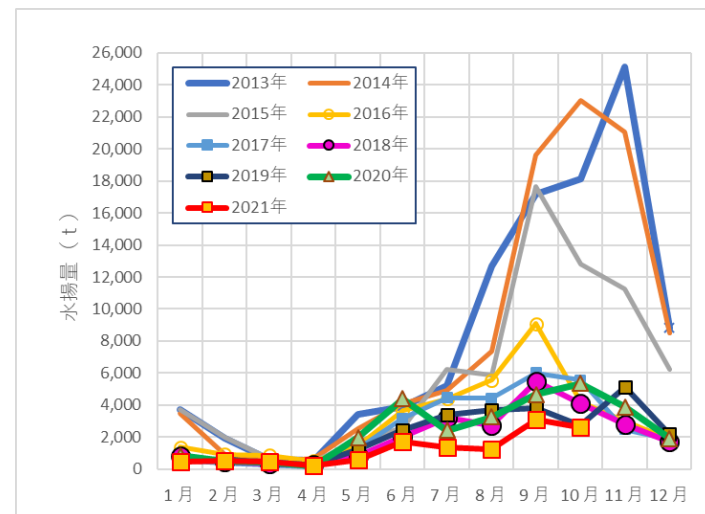


図1. 生鮮スルメイカ(全国)の月別水揚げ量(トン)

(出典:おさかなひろば)

2021年1～10月の生鮮スルメイカの月別累計水揚げ量は1.2万トンで、前年の1/2、2013～2020年の平均3.8万トンの1/3であった（図2）。

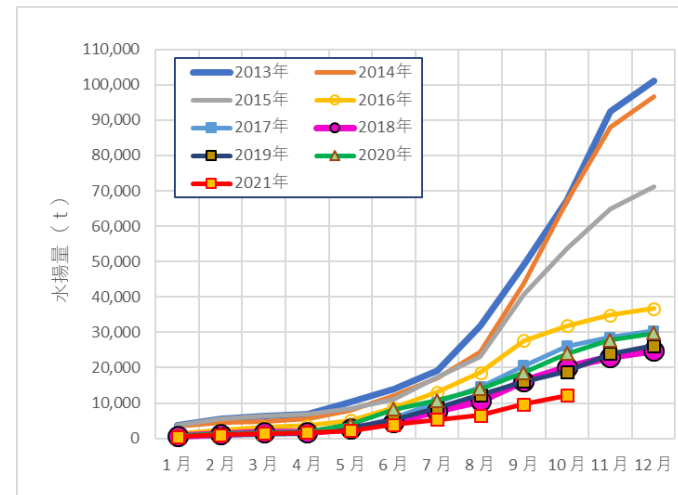


図2. 生鮮スルメイカ(全国)の月別累計水揚げ量(トン)

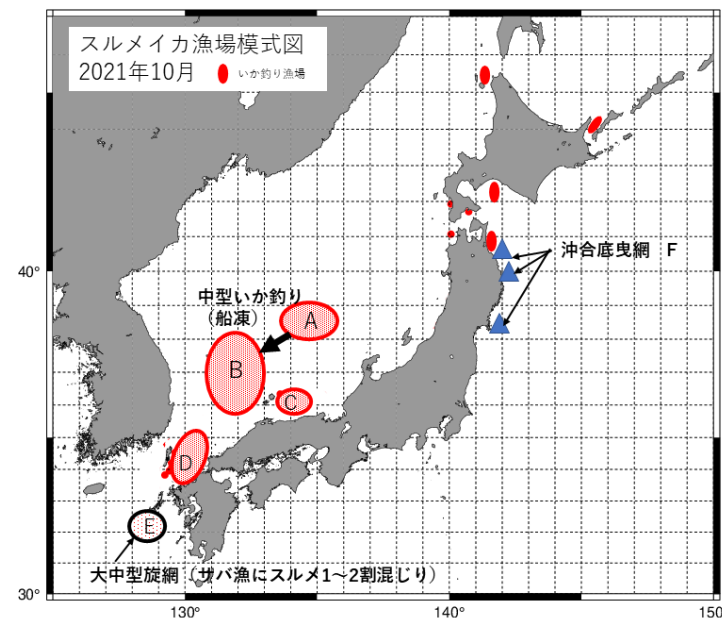


図3. 2021年10月のスルメイカ漁場模式図

2) 各地の漁場形成の特徴

①日本海

日本海で操業する中型いか釣り船（船凍）は、夏場の高温（平年差プラス4～5℃）の影響で、群が一気に沖合を北上し、日本海の大和堆（図3のA海域）では、7月以降、長期間好漁が続いた。10月上旬には大型低気圧の通過により、海面水温が平年並みに低下した。このため、大和堆に滞留していた群が10月中旬には隠岐北西沖（図3のB海域）に南下した。隠岐諸島（図3のC海域）～九州北部（図3のD海域）にも漁場が形成され、10月上旬には小型いか釣り（生鮮）でも一時的に好漁がみられた。

隠岐北西沖では産卵後の身の薄い「皮イカ」が多く混じったことから、10月末には一部の船は大和堆で再び操業した。なお、皮イカは1隻1航海当たり8千～1万箱の水揚げのうち、70～80箱であった。皮イカの価格は1箱（8kg入）2,500円で、通常のブロック品のほぼ半値であった。

なお、日本海の最北部の稚内では、例年、8～10月には小型いか釣り主体に2千トン前後の水揚げがある。しかし、今期は10月末までに沖合底曳網による少量の漁獲があったのみで、小型いか釣り船の漁獲は皆無であった。11月に入ると6～7隻の小型いか釣り船がようやく操業を開始し、1日当たり千数百箱の水揚げが続いている。

②東シナ海

東シナ海の五島沖（西沖、図3のE海域）では、10月下旬後半～11月上旬前半にまき網漁により、スルメイカの大型個体（1尾約430g、1箱21.5kg・50尾入）が、多い日で60トン、累計では約200トン漁獲され、価格は6,000～6,600円/箱であった。この大型スルメイカは、産卵のため日本海を経て東シナ海五島沖（西沖）まで南下したものと推定される。

③オホーツク海～根室海峡・道南

この海域（特に羅臼）では、過去には9～11月の短期間に3万トンを超える豊漁年もあったが、近年は数百トン～

数千トンの漁獲に留まっている（図 4）。今期は 10 月末までの羅臼・網走・紋別の 3 港合計で約 1 千トンの漁獲で、2019～2020 年をやや上回る程度であった。なお、10 月下旬には道南の苫小牧～室蘭～噴火湾でも一時的に釣りによる好漁がみられた。

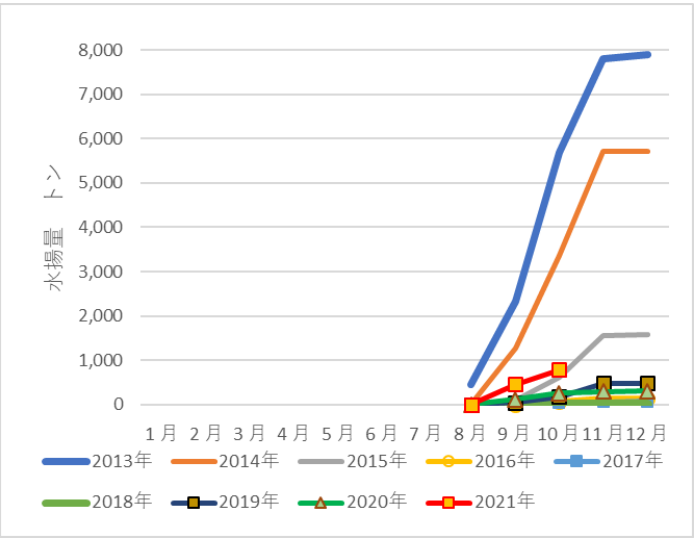


図 4. 羅臼・紋別・網走の生鮮スルメイカ月別累計水揚量(トン)

④三陸

2021 年 1～10 月の生鮮スルメイカの累計漁獲量は前年を大きく下回った（図 5）。釣り・定置網・まき網によるスルメイカ漁は低調で、沖合底曳網（八戸・宮古・石巻：図 3 の F）によるスルメイカ漁は前年を下回ったものの、他の漁業と比べると比較的好調であった。石巻では 9 月は 40～50 トン/日の水揚げがあったが、10 月になると 20 トン/日以下に低下した。なお、10 月にはスルメイカ主体の漁から、例年どおり、ヤリイカ主体の漁獲に切り替わった。沖合底曳網によるスルメイカの魚体は、約 200g/尾で発泡ケース 30 尾入に相当する。

今期の 1～10 月の三陸一帯の累計水揚げ量は 3.7 千トン

で、前年の 1/3 であった。

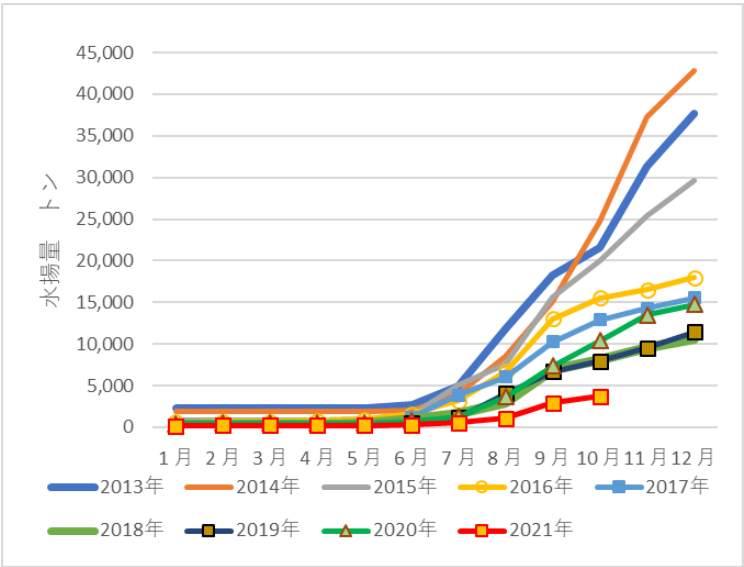


図 5. 三陸主要港の生鮮スルメイカ月別累計水揚量(トン)

2. 生鮮スルメイカ（全国）の月別平均価格の推移

2021 年 10 月の生鮮スルメイカの平均価格は 595 円/kg であった。スルメイカの不漁が続くものの、マツイカを含む冷凍スルメイカ類の輸入量（表 1）が国内の漁獲量の 2 倍近くもあり、加工原料や解凍品・ボイル品として生食用等にも仕向けられている。このようなこともあり、生鮮スルメイカの月別平均価格は 7 月以降低下しており、概ね前年並みとなっている（図 6）。

表 1. 冷凍スルメイカ類の輸入量（トン）※調整品除く

年	9月	年計	1-9月小計
2018 年	4,995	73,833	56,770
2019 年	7,284	80,379	51,910
2020 年	7,197	78,638	51,580
2021 年	7,748	—	58,631

（出典：財務省貿易統計）

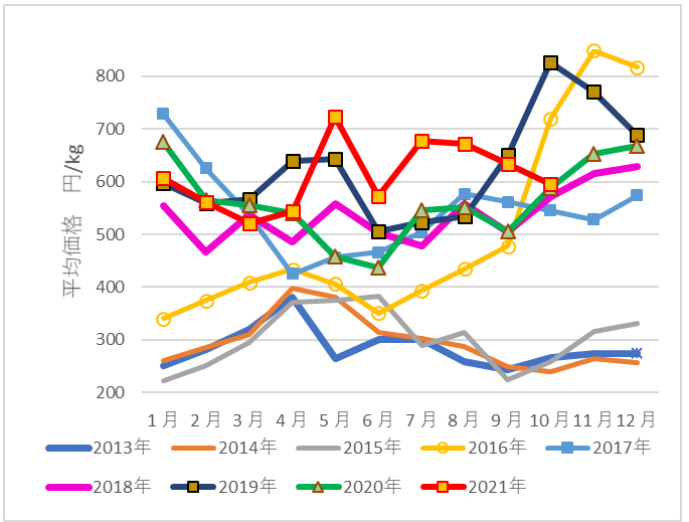


図 6. 生鮮スルメイカ(全国)の月別平均価格(円/kg)

3. 冷凍スルメイカの月別水揚げ状況

2021 年の 10 月の主要港における冷凍スルメイカの水揚げ量（図 7）は、1.3 千トンで、前年同月の 2 割増であったものの、9 月の 2 千トンから低下し、2013～2020 年平均 3.3 千トンの 4 割に留まった。

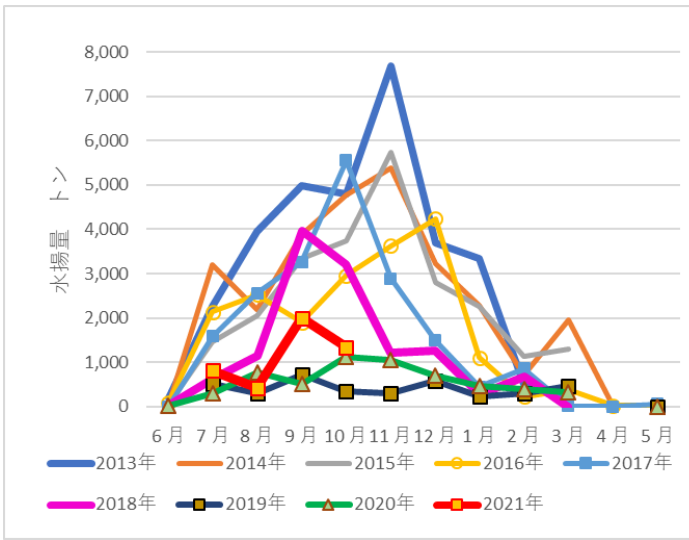


図 7. 冷凍スルメイカの月別水揚げ量(トン)

2021 年 6～10 月の主要港における冷凍スルメイカの累計水揚量（図 8）は 4.6 千トンと、2019 年・2020 年同期を上回ったが、2013～2020 年同期の平均 9.7 千トンの 3 割に留まった。

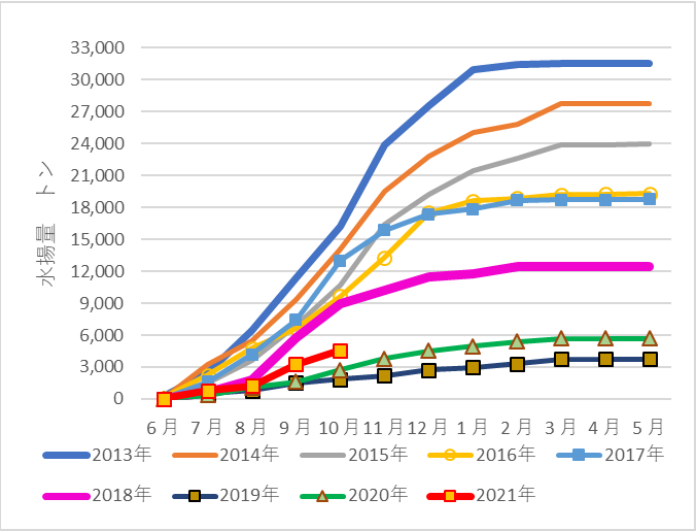


図 8、冷凍スルメイカの月別累計水揚量(トン)

4. 冷凍スルメイカの月別平均価格の推移

主要港における冷凍スルメイカの月別平均価格（図 9）は、現在は昨年同期並みの 600～700 円/kg で推移しており、生鮮スルメイカとほぼ同様の値動きであった。

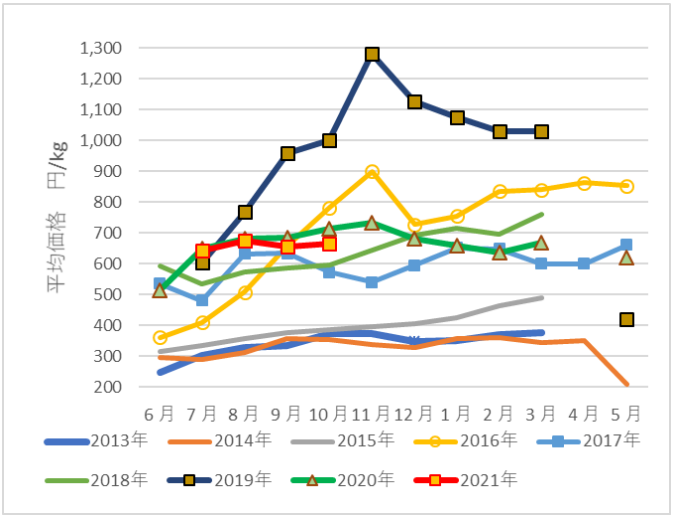


図 9. 冷凍スルメイカの月別平均価格の推移(円/kg)

5. 今後の動向等

生鮮・冷凍ともにスルメイカ漁は漁期終盤であり、過去最低であった昨年を下回る漁獲水準である。10 月現在、日本海の中型いか釣り船（船凍）の漁況は群が薄く 7～9 月のような勢いはない。年明けには中型いか釣り船の一部は、例年どおり三陸沖でアカイカ漁に切り替える。今後のアカイカ漁に期待したい。

（水産情報部）